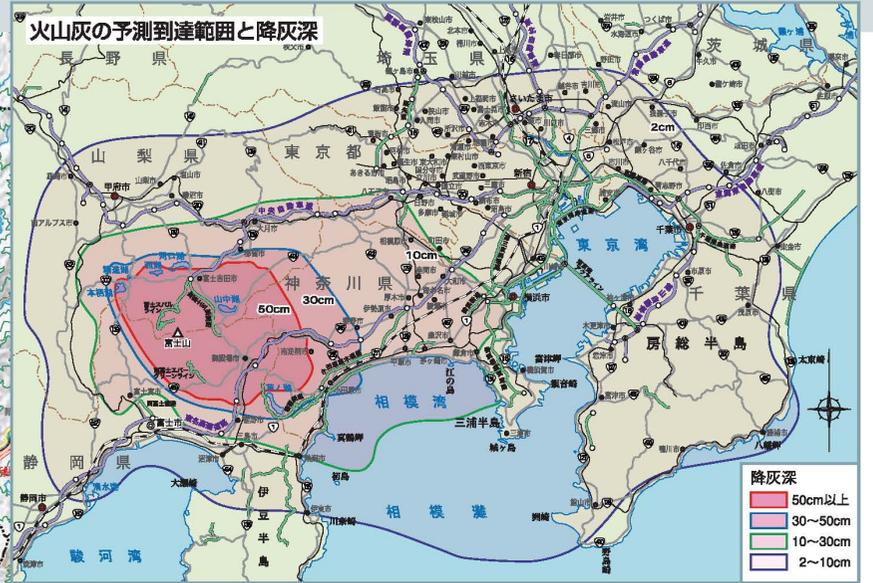
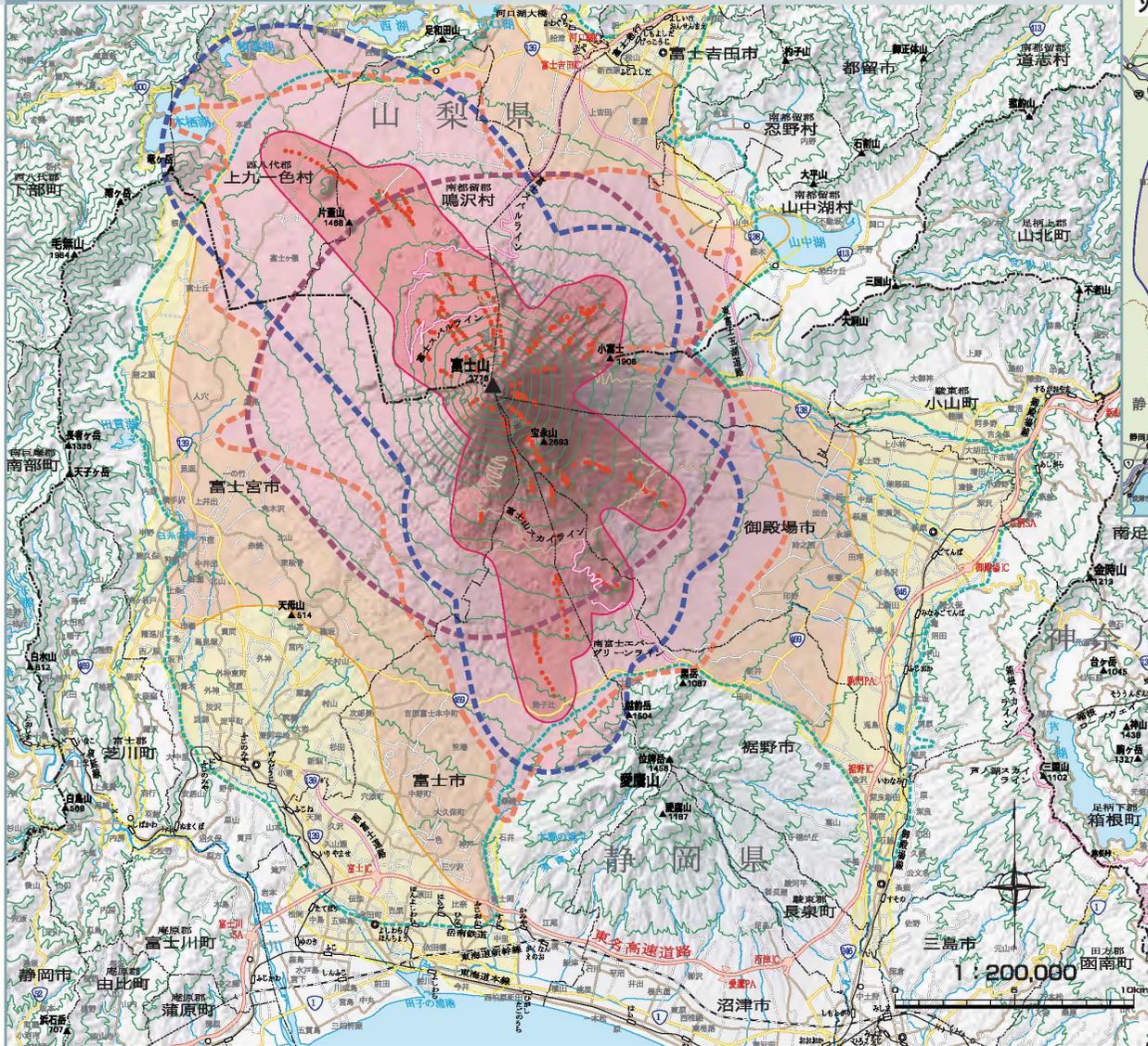


災害の発生可能性マップ

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地勢図及び数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号 平16総発 第140号)



火山灰や軽石を出す大規模な噴火の場合広い地域に火山灰が降ります
 季節によって風向きが変わるため、火山灰の到達範囲は変わります。この図はすべての季節を重ねて最大を描いたものです。

降灰があったら...

- 灰を吸わないようにするためマスクやゴーグルを着用しましょう。
- 火山灰だけでなく小石が降ってくることもあるので、やむを得ず外に出る時はヘルメットや防災ずきんをかぶりましょう。
- 家は窓を開けて建物を密閉します。木造家屋では屋根に30cm以上の火山灰が積もると、屋根が抜けたり建物が壊れたりすることがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。
- 車で行くと、灰を巻き上げて視界が悪くなったりスリップしやすくなります。また、雨が降っていると灰が固まりワイパーが使えず危険です。高速道路は、通行不能となる可能性があります。JRなど鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。



図の見方

この図は富士山が噴火した場合に、溶岩流、噴石、火砕流などの影響が及ぶと想定される範囲を全て重ねて描いたものです。全ての方角に同時に発生することを意味するものではありません。

- 火口ができる可能性の高い範囲 (この範囲のすべてでなくどこかに火口ができます。)
- 過去に火口が出来た箇所 (平成14年9月末日時点での調査による)
- 噴火しような時、噴火が始まった時すぐに避難が必要範囲を示しています。(噴火した場合、下の3つのどれかに当てはまり、すぐに危険になる範囲です。)
- 火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で流れる範囲
- 火口から噴出した石がたくさん落ちてくる範囲 (この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。)
- 溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲 (3週間程度を想定)
- すぐに危険にはなりません、火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される避難情報に注意して下さい。また、避難に時間がかかる人(お年寄りや入院患者等)早めに避難して下さい。(溶岩が流れ続けた場合に、1日程度で到達する範囲を示しています。)
- すぐに危険にはなりません、たいへん大きな噴火の場合に火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される情報に注意してください。(溶岩が流れ続けた場合に、数日間以上で流れてくる範囲を示しています。)
- 雪が積もっている時に噴火しようになった場合に、沢や川には近寄らないようにする必要があります。 (積もった雪が火砕流により溶かされた場合、発生した泥流が沢や川沿いであふれるおそれのある範囲を示しています。)